

東洋の智慧

ある書物を読んでいますと、西洋と東洋の民族性の違いということで次のようなことが書かれていました。

自分にとって都合の悪い状況が起きた時、それを解決するのに、西洋人は、周りを変えていこうとするが、東洋人は、自分自身のあり方を変えていこうとする、というのです。どちらも夫々に利点があるので、それを上手く使い分けるのが一番良い方法であると書いてありました。

中々、面白い見方です。

* 西洋的・・・周りを変える

* 東洋的・・・自分を変える

皆さんはどうでしょうか？

どちらかという、前者（西洋的）の方が多いのではないのでしょうか。

というのは、私たちの意識はいつも外へ外へと向かっており、自分の方に向かないという習性があるからです。

たとえば、「あの人は道で出会ってもニコリともせん。本当に無愛想で人づき合いの悪い人だ」と非難することがあります。その時、間違いなくこちらでもニコリともしていませんが、そのことはさておいて、あくまで相手に問題があるとするのです。

このように、私たちの意識は、いつも外へ外へと向かっていきますから、何か問題が起きると、つつい周りを変えていこうとする、いわゆる西洋的な発想になってしまうというわけです。

もちろん、西洋的な発想が間違いだとは言いませんが、この発想は、自分はそのままで、周りだけを変えていこうとするきらいがあるため、どうしても無理があります。

自分のことは棚に上げて、相手にだけ、「変われ、変われ」というのは現実問題として大変難しいのです。

もし、そんなことで、「何とか丸く収まったな」ということがあったとしたら、それは、誰かが辛抱したり我慢しているはずで、それは本当の解決とは言えません。

ですから本当の解決を望むなら、東洋的な発想（自分を変える）がどうしても必要になってくるのです。

「まず自分自身が変わりなさい、そうすればすべてが変わってきます」というのが仏教の説くところです。

もとより、こちらが変わっても、すぐにガラリと変化しないかもしれません。しかし、徐々に、徐々に、ですが確実に周りが変わっていきます。

自分が変わり、そして周りが変わる。そうやって問題を辛抱強く解決していこうとする。これが東洋的な発想です。

親鸞聖人は「念仏者は、あらゆる障害から解放された自由な人生を歩むことができる」と仰っていますが、まさにこうした東洋の智慧を身につけることによって、初めて実現する世界だと思えます。

平成18年12月 「光明寺だより48号」より